

年度内にも戦略策定

有識者ら 未来像共有へ議論

性別格差解消向け豊岡市

豊岡市が取り組む「ジェンダーギャップ（性別による格差）の解消」に向けた戦略会議がこのほど市役所で開かれた。若い女性のUIターン率が低い同市では、ジェンダー意識の変革や具体的な取り組みを行うことを最重要課題として位置付け、これまでに企業や市役所内での計画を検討。本年度中にまち全体の戦略策定を目標にする。

（石川 翠）

会議は有識者や企業経営者、教員、育児中の人、20代の会社員、地域活動グループ代表者ら、多様な立場の10人が委員を務め、半数が女性。約20人が傍聴した。冒頭、中員宗治市長が「採用時などに差別をしたことはなかったが、（管理職などの役職の）壇上には上がるまでに関心を持っていなかった。結果、補助的な仕事が多くなっていて申し訳ない。社会的、経済的

な損失だけではなく、公平ではない状況を変えたい」と話した。コンサルティングなどを手掛ける企業「クレアン」（東京都）の園田綾子さんが進行役を務め、委員同士で目指す未来像を共有するためにワークシヨップを実施。個人や行政ができることについて意見を交わす場面では「会議をたくさんやっても本音で話せなければ意味がない」「若い議員

を増やす」「女性の区長をつくる」などの声が上がった。

アドバイザーの大崎麻子・関西学院大客員教授は「誰にでもさまざまな固定観念があって、気付かないうちに意思決定や施策にも反映されてしまう。常に意識してほしい」と話した。今後、2回会議を重ね、来年3月末に戦略を策定する予定。



ワークショップで意見を交わす委員ら＝豊岡市役所